

取組の概要【1 ページ以内】

近年の就職活動においては、いわゆる「厳選採用」の傾向が強まり、大学生が採用側に求められる水準も高いものとなっている。そして、基礎学力や学習意欲の低い学生は、就職活動で一層の苦戦を強いられている。こうした現状を踏まえ、本学では平成22年度から、カリキュラムにおける体系的なキャリア科目の整備をスタートさせた。そこでは「就業力の土台となる人間力」を育成し、かつ「就業力と学士力の同時発展を促すシナジー効果」を生み出す教育プログラムの創出が目標となっている。本取組は、上記の教育構想を実現するため、大学四年間を通じた全学的キャリア教育の体制を、カリキュラムと組織の両面にわたって整備し、発展させることを目指すものである。

従来の大学では、単に「内発的意欲」の発展を促すに留まり、現実社会のニーズに気付かせ、それに応えようとする「外発的意欲」を育てる視点が欠落していた。これをふまえ本取組では初年次に「自己の資質・能力を見極める力」、二年次に「現実社会のニーズを捉える力」、そして三・四年次に「これら二つの力を統合し就業を実現する力」を、学生たちに獲得させていく。それは、単に就職活動向けのノウハウを身につけさせるものではなく、学士課程教育の中核をなす専門の学びを生かすキャリア教育、さらにはそれが専門学習の深化につながるキャリア教育でもある。本取組は、いわば就業力と学士力とを相互発展させる「シナジー効果」を戦略的に取り入れた、新たな大学教育の創出を目指すものといえる。

組織面では、教育計画を推進する学内組織「就業力育成委員会」を設置し、その指揮の下、本取組の中核をなす新規科目の運営を全面的にサポートする「実践教育サポートオフィス」を新設する。本オフィスは、学内の各組織と有機的連携を図りながら、事業推進に必要な学外実習の提携先、インターンシップやボランティアの受入先を新規に開拓していく。

また、本取組における基幹事業の一つとして、正課と課外を問わず、学生の全学習履歴・学習成果物をデータ化した「大学ポートフォリオ」システムを開発する。これを全学で共有し、学生一人一人に対して最適な修学指導、および就職指導を行うための基盤的リソースを確保する。本取組が目指す全学的キャリア教育も、この基盤を縦横に活用しつつ整備し、発展させていく予定である。

<図1：本取組の概念図>

